

午後2時20分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、11番富田栄一議員の質問を許可します。11番富田栄一議員。

（11番富田栄一君登壇）

○11番（富田栄一君） 11番富田です。

「ことしは蛍を1匹見たよ。」いつもの年は蛍が飛び交う松末地区の友達の話です。彼は災害から頑張って成長した1匹の蛍の光に復興の元気をもらったと言います。

梅雨に入ってしまった。恵みの雨かもしれませんが、しかし、いまだに以前の生活に戻れていない方々に改めてお見舞いを申し上げますとともに、私自身、同じ市民として共感なくてはいけないと思っております。また、いつ大雨が降るかもわからないこのときに、川の中に重機を入れて頑張っていたり、また山の急斜面に張りついて作業していただいたり、復旧作業を頑張ってもらってる現場の方々に、この議場から感謝と敬意を表します。

朝倉市本庁にいますと、いつもと同じ風が流れているようですが、あれからもう1年がたとうとしてますけれども、いまだに国道386号線は片側通行で、24時間交通指導してらっしゃる方が立ってらっしゃいます。いまだに国道386号線でさえその現状でございますので、この災害の大きさというのを改めて実感しております。そして本年、地球の穏やかで災害の出ないことを心から祈りしてる次第であります。

さて、日本経済はアベノミクスということで景気が上向いているようでありますが、朝倉地域の経済はいかがでしょうか。農業においてはTPP問題が目の前に控え、世界の中を朝倉の農産物がどうあるべきか、そんなことを考えなくてはいけない、途方もないことになってきてるのではないかなと思います。ですからこそ、森田市長が唱えられました日本一のふるさと朝倉構想へ向けて、朝倉市は今、何をやろうとしているのか、朝倉ブランドづくりについて質問していきたいと思っております。それぞれの部署で、部長、課長が中心となって、市長の言われる日本一のふるさとづくりのために頑張ってもらえることと思っております。ふるさと朝倉が日本一になることを、私も皆さんとともに夢見ています。そして夢の実現のために行動していきたいと考えます。

質問席より質問させていただきます。

（11番富田栄一君降壇）

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） ブランド政策事業について質問させていただきます。

教育についてブランド政策ができないのかなと、私自身、ずっと思っていました。まちづくりは人づくりと言われてます。そこで朝倉市として教育のブランド化、考えてみてはどうでしょうか。5月25日、朝倉高校で行われたグリーンウェイブ2013 in あさくらにおいて、国連生物多様性事務局上級環境担当官、ニール・プラット氏はこんなことを申しま

した。「自然とともに生活するとストレスが少なくなる、集中力が高められる、また社会性が培われる」。その内容でした。私は朝倉市の教育を後押しするそのままではないかと感じました。環境を取り入れた朝倉市の教育政策は、大きな誇り、ブランドになると考えます。ちょうど今、学校再編の問題もあります。実行するしないは別としまして、日本一のふるさと構想の中で、朝倉市の理想とする学校のあり方はどんなものか、お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） お答えいたします。

朝倉市の教育委員会におきましては、時代の進展、あるいは社会の変化に目を向けながら、国や県の教育改革の流れを積極的に受けとめながら、地域に根差した新しい教育環境を再構築していくことが求められているというふう考えております。そして市長がマニフェストの中でも挙げておりますが、親、子、孫が一緒に安心して心豊かに暮らすことができる町、朝倉市を築いていく人材を育成しなければならないというふうにも考えておるところでございます。

このような認識のもとに、朝倉市の教育の充実、発展に期すため、毎年度、朝倉市教育施策要綱というものを作成をしているところでございます。この教育施策要綱の学校教育目標として掲げておりますのが、高い志を持って意欲的に学び、グローバル社会を生き抜く力を育む魅力ある学校づくりというものを掲げております。また、この目標を推進していくための主要課題と具体的方策及び成果指標として具体的な目標値も設定をしているところでございます。その主要課題の1つ目に確かな学力の育成、2つ目に豊かな心の育成、3つ目に健やかな体の育成、4つ目に信頼される学校づくり、5つ目に教育環境の充実などを掲げておるところでございます。さらに市内小中学校におきましても、それぞれの学校で学校経営要綱というものを毎年作成をしております。その中に地域の個性づくりなど、その学校独自の個性ある教育活動方針が示されており、これを推進をしているところでございます。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 一般的な学校というか、標準的な日本の学校だったらそれでいいかと思うんですが、もう1つ、日本一と言うからには何かしらの地域の宝を見つけ出してしなくてはいけないのではないかなと私は思っています。そうしないと日本一という言葉はなかなか使えないと私は思います。どのようにして朝倉の強みを生かしていくか、どのようにしてその弱みを克服していくのか、そしてどのように今の現状の機会を、このチャンスを利用するか、また目標達成のためにある障害を取り除くか、これはSWOT分析の中のその1つですが、そうしていく中で、今、言われました学力とか、豊かな人間関係とか、それから教育環境、それから健康、体、伝える力とかありましたが、この杷木地域の4つ

の小学校のPTA会長が投げかけていました課題、「学力向上、豊かな人間関係、PTA活動、地域とのつながり、教育環境、通学対策」とかいうのがあります。いかにしていい学校をつくるかというのは、この課題をどういうふうにして解決していかうかということで、もっと具体的な学校像ができ上がるのかと思っております。どういう朝倉の教育政策が見えてくるかと思いますが、もう少し詳しく教えていただければありがたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） 先ほど杷木のほうの小学校のアンケートを踏まえた5つの課題というふうなことで議員おっしゃいましたけれども、まず1点目の学力向上につきましては、朝倉市が作成しております施策要綱の中の確かな学力、この中で協議なり、教育活動をしていくというふうを考えております。また2点目の豊かな人間関係、これにつきましては施策要綱の豊かな心、あと3点目、4点目のPTA活動、地域とのつながり、これにつきましては施策要綱の信頼される学校、5点目の教育環境と6点目の通学対策、これにつきましては施策要綱の教育環境の充実、この中で議論をしながら子供たちの育成を図っていきたいというふうを考えております。

あくまでも朝倉市の教育委員会といたしましては、この作成しております朝倉市教育施策要綱を基本方針と位置づけまして、これがブランド化とまでは言いませんけれども、これをもとに朝倉市の教育施策を進めていきたいというふうに教育委員会としては考えているところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 学力向上に頑張りましょうという努力目標はよくわかるんですが、例えば朝倉市としてはこういうふうに学力向上については応援していきますよという、その具体的な例というか、そういうことがあるはずだと思うんです。それは学力向上を目標とした課題だと思ってるんで、その課題解決のために朝倉市は何をするかというのが必要だと思うんですが、そこあたりのところの具体的なものがありましたら教えていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） 先ほど朝倉市教育委員会が作成をいたしました教育施策要綱の5点についてお話をさせていただきました。それぞれの主要課題の中で指標を設けさせていただいております。まず確かな学力につきましては、指標といたしまして、全国学力調査の点数が全国、県、北筑後の平均以上になるように目標を設定しておるところでございます。2点目の豊かな心におきましては、指標として不登校発生率が全国、県、北筑後の平均以下になるように目標を設定しておるところでございます。3点目の健やかな体におきましては、指標といたしまして体力テストが全国、県、北筑後の平均以上になるというような目標を設定しておるところでございます。4点目の信頼される学校につきましては

は、月1回の校長だよりの発行ということを目指して掲げておるところでございます。
5点目の教育環境の充実につきましては、学校施設の耐震化100%、これを指標として掲げているところでございます。ただいま申し上げました指標に向けまして、具体的な重点目標、あるいは主な施策を講じながら進めていきたいというふうに考えているところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 私は日本一の夢を見たいと思って質問してるんで、北筑後の平均というのはよくわかりますが、もう1つ違う話をいただきたいと思ってます。後々でまたその件については触れさせていただければと思ってます。

次のというか、まちづくりは人づくりの中で、もう1つ別件で、朝倉市の先生方の異動について、朝倉市は朝倉市だけで単独でやってるのが多いよという話を聞きます。朝倉郡とでさえも余り交流がないというのを聞きます。市長はお言葉の中に、朝倉は1つという言葉があります。まちづくりは教育から始めることが大切ではないかなと考えておりますが、先生方も交流することが、その朝倉は1つの中に大きく入ってくるのがあると思えますし、また先生方のいろんな考え方が幅広くなるためにも、朝倉市郡、他地域との交流というのも大切ではないかなと考えております。これは、まだ私が調べたわけではございませんので、人からの話で、本当は、いや、交流はしてるよという話があるのかもしれませんが、改めてこの場でお尋ねさせていただきたいと思えます。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） ただいまの教職員の異動の件でございますけれども、まず教職員の異動につきましては、議員御存じのとおり、朝倉市は北筑後教育事務所管内に属しております。基本的には北筑後教育事務所管内で教職員の異動は行われております。この異動に関しましては、本人の希望もございまして、管内での交流は実際、現実問題として実施をされているということでございます。ちなみに北筑後教育事務所管内には7市町村が属しております関係で、朝倉郡、あるいは久留米市とか、ほかの市町村との交流も行ってございますので、議員がおっしゃいますような異動が少ないというようなことはございません。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 本当に教育がまちおこしの1つの大きなものだと思いますし、どんどん朝倉は1つという理念のもとに、子供たちのときから一緒にずっとなっていけるように、そういう先生方の交流をより活発にさせていただければと思ってます。そういう意見が出ないように、より活発にさせていただければありがたいと思えます。

今、さっきの問題に戻りますが、具体的な政策がなかなか表に出てこない、話の中では教育委員会は予算も議会の提案権もないので、教育政策はなかなかつくれるんだという

言葉を聞いたりもします。もしそうであれば、市長とのパイプがうまくいってないんじゃないかなと心配もします。朝倉教育という話を聞いたことがあります、朝倉は教育が発展したとこだよというのを大先輩から聞いたこともあります。朝倉市が責任を持って子供たちを育てる教育がどうあるべきか、さっきも申しましたけれども、もっと市民にわかりやすい政策をつくるべきではないかなと思ってるんですが、具体的にもっとできないんでしょうか、いかがでしょう。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） 再度の繰り返しになりますけれども、先ほど述べましたように、朝倉市といたしましては、先ほど申し上げました学校教育目標といたしまして、高い志を持って意欲的に学び、グローバル社会を生き抜く力を育む魅力ある学校づくりというものを朝倉市の個性ある教育方針であるというふうに考えているところでございます。また、その中でわかりやすい具体的方策と成果指標、目標値も先ほど申し上げましたような形で設定をさせていただいておるところでございます。議員がおっしゃいますようなことにつきましても、今後また参考にできる部分は参考にしていきたいというふうに思いますし、日本一といいますとなかなか難しい部分がございますので、朝倉市としては先ほど何度も申し上げますように、この教育施策要綱を基本方針と位置づけて学校教育に取り組んでいきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 例えば学力向上については、佐賀県の武雄市が非常にコンピューターとか、ああいうのを努力してますが、iPadを子供たちに持たせることによって、それを授業で活用して学力が非常に上がってきたという実績を耳にしたこともあります。

また島根県の隠岐郡海士町におきましては、保育所から、そしてまた県立高校まで子供たちの教育を一貫して町が見ると、そういう中で学力向上をやったと、島の高校生は3分の1が国公立の大学に通ったと、そういう努力目標の中で達成してるというそういう、それは町で公立の塾を持ってみたり、または町外から講師を呼んできて、いろんな交流事業をやったりという中で子供の教育を進めていると、そういうような町もあります。

日本一のふるさとと言うなら、やっぱり視線は日本に全国に目を開いて、具体的な何か子供のためにできることという政策があるべきではないかなと思うんですが、そこらあたりについてはどうでございましょうか。

○議長（手嶋源五君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 今、議員おっしゃってあります特色のある何かを取り組んだらいかがかというふうなことで御提案があっていると思っておりますが、今、私たち教育委員会が、これ学校のほうと話しながらやっています学校づくりは、おらが学校をつくろうと、当たり前のことが当たり前に当たり前のようにできる、そういう学校をつくりたい、こん

な学校になったらいいと、こんな子供になったらいいというのを行政がつくって、どうぞ置いてくださいと、この中からいいとこ選んでいってくださいというんじゃないで、一緒になってどんな学校が自分たちにとっていいのかと、そういうことを考えて、こんな学校がいいよねというのを、学校、地域、保護者、子供一緒になってつくっていこうと、そういうことを目指しています。それで何か新しいことがあるかとか、特別変わったことがあるかというような視点とはちょっと違ったような形で学校づくりを進めていこうとしておりますが、長い目で見ると、それぞれの地域の伝統文化とか、そういうことを大事にしながら、そこにしかできないような、そこが営々と引き継いできたことを大事にしながら、その志を受け継いでいくとか、そういうふうなことにつながるような学校づくりをしたいと、これが朝倉市の考えてる最終的にはブランドになっていくんじゃないかなというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 教育長言われたとおり、本当に私もまさしくそこを思ってます。それをやってるのは本当に海士町でありました。大切なものを守るためには変わらなくてはいけない、変わらなければいけないということで頑張っていっちゃいます。ここで思ってるのは、島なんですけども、島まるごと教育ブランド化事業ということでいろんなことをされてます。環境教育を柱として地域活性化を行ってきて、環境を考えた持続可能な町として町外にPRをしていってます。そして交流事業を行って、子供たちから大人まで多くの方がこの島のほうにやって来ていろんな体験をしてもらい、環境に対する体験、教育をしてもらおうと。そして、その結果、島を訪れた若者がIターンとして有名な会社をやめてこの島に移り住むようになってきています。海産物などのブランド事業も実績があります。さらに、その事業の中でコミュニティビジネス、地域のコミュニティについても、そこのできてるものと、例えば梅干しをその島に移り住んだ方がつくった塩でつくることによって、新しい島のブランドとしてコミュニティのビジネスを島のブランドとして地域おこしをすると、干物についても同じように塩をいろんなものに使ってコミュニティビジネスをつくっていくとか、そういうことをやりながら全く島と関係ない人がそこに情報発信することによって、私が奇抜なことというふうに言ってしまいましたが、それは朝倉市にある宝をこういうことで情報発信することで朝倉に来た人がいいなと思えるような、そういう教育の仕組みをつくれなかなと思って言ったんですが、そういうことをやって、本当にコミュニティにお金は生むようになって、そういう仕組みをつくってます。

また海的环境教育が海士町ならばということで頑張ってますし、森田市長言われるように、日本一のふるさとと、ここには山があります、そして水があります、3つのダムをつくろうというぐらいに水があります。そして祭がある、文化がある、歴史もある。海海士町ならば山の朝倉市として教育をブランド化して、そこに持ち出して地域おこしができるか、ここに住む人たちがふえないかということが考えられるんですが、そういう考え

についてはいかがでございましょうか、市長、お考えがありましたらお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 日本一という話が出てきましたけれども、教育における日本一とは何かということを考えなきゃならんのだろうと思うんです。今、言われました武雄市が iPad を使った、これはよそに先駆けてやっております。じゃあそのことと学力が直接的に結びつくのかということじゃなくて、それは武雄市なりの考え方の中でやられてることだろうと。

今、教育は教育委員会という、教育委員会事務局ですけど、厳密に言うと、という市とはちょっと独立した組織の中できちっと今、朝倉市の教育については、今、教育長から答弁があったようにやられております。ただ、その中でもこちらのほうとして教育委員会にこういうことをお願いしたいんだということは申し上げております。その1つがいわゆる百人一首です。各学校に小中学校に五色百人一首を配付させていただきました。そのことによって、今、各学校、学校によって多少の温度差はあるみたいでありますけれども、総体として取り組んでいただいておりますし、毎年、市内の大会も開かれますし、ことは御存じのように九州大会規模の大会が開かれる。また、ことしも秋ぐらいに計画されておるようであります。そういうことを通して、もちろん市長の部局のほうからこういうこともお願いしますということを言います、それは当然。しかし、その中でも、それはあくまでもお願いする立場であって、やはり教育委員会というのは、事務局というのは現在の組織の中では独立した組織でありますから、その中で朝倉市の教育というのはどうあるべきかということで、しっかり今、取り組んでいただいておりますんで、市長としてはそのことを尊重していきたいと思っておりますし、先ほど市長とのパイプがどうたらという話をされましたけども、そういうことはございませんで、きちっと教育委員会のいろんな面でやりたいということで、予算等についてもきちっと話をさせていただきながら、お互いに相談しながら決めさせていただいておりますんで、それは杞憂だろうと思っておりますんで、御心配は及ばんというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 何遍も私は思うんですが、やっぱり日本一というのはやっぱり朝倉にはあると思うんです、できると思っております。小さな島ができたんです、ここには市長言われるように小倉百人一首の第1首を詠まれたというそういう歴史と文化が脈々と培ってるこの土地で、そして、この里山があって、その水も生み出して福岡都市圏まで送ってると。福岡都市圏まで本当に1時間、そういうところのすばらしさを出さなくちゃいけん。それが過疎、学校が統廃合するとか、そういう話じゃなくて、もう一遍、自分どこにあるものでよさを出して、そして来てもらって、そして体験してもらおう。その体験するのの1つの例をとったのは、この本当に海士町でした。中学校に対する出前授業をやってみて、講師を外から呼んでみて、来た人たちが島に触れて、ああ、よかったと、何年か後

ここに残るとか。それから本当にびっくりするんですが、どういうふうにしたのか知らんけど、この高校生が修学旅行に行って一橋大学で講演をしてくるとか、そんなこと、とてつもないことを考えてらっしゃいます。後ろ側がたくさんあるんでしょうけども、努力があるんでしょうけど、海士町にできてうちにできないわけではないし、何かしら考えることによって子供にも自信になるし、誇れる朝倉市がつかれるんじゃないかなと思ってます。

国連のニール氏が本当に言われたときの言葉、もうあのときに私は初めて教育がブランドになるんじゃないかなと思ったんです。環境に対して、緑に対して働きかけることによって、人間はさっき言った集中力、そして社会性、さらにストレスがなくなると、集中力が高まって社会性が培われて、そしてストレスが少なくなる、このことは本当に朝倉の脈々としたこの先輩たちからもらった宝物だろうと思うんです。これを教育に生かして、そして朝倉をまず知ってもらえる政策、僕はそれを、そういうなのは教育の朝倉ブランドになるんじゃないかなと思ってのんですが、教育長、もう1回、どうでしょう、同じ考えですが、もう1つ工夫してみたらどうかなと私は思ってるんです、いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 今、議員おっしゃいました地域のいいところを教育の中に取り入れるというところは大きいこれからもしていきたいと思えます。私はそれぞれの学校に、市内の各学校がよその学校がまねできないような特色を持った教育活動をしているというふうに思ってます。ただ、残念ながら私たち教育委員会もそうですが、周りに宣伝するのが余り得意じゃないので、それがなかなか広がってないところ、認知されてないところがあるんじゃないかなと思いますけれども、その中で過ごしている職場についてます教職員も、やっぱり地域の教育力の中で育てられているというふうに思っています。私はそういう環境の中で育てられてる教員は、朝倉市の教員で勤められて資質が高まっていいなと、いいところに来ていただいたなと、そういうふうに思ってます、それも1つの私たちは学校としての1つのブランドになるというふうに思っています。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 教育のブランド化というのはずっと私の夢ですし、何かしら学校PTAもいっぱいやってきましたんで、いろんなことでまた勉強させていただきたいと思ってます。

教育長言われましたように、この朝倉というのはPRは下手くそだよと多くの人から聞きますし、また私の周りの人も、「何でテレビに出らんな。」と、「うきはやら、よう出よるばってん、朝倉、なかなか出らんね。」という話を聞きます。ある企業に行っても、その企業の方も、うちの会社はPRは下手やんねという言葉が言ってました。でも、この海士町というのはPRが上手なんですよね、でもPRするのの一番力になるのは行政なん

です、どげん民間が頑張っても、民間が100言ったって信用できないけども、行政が1言ったら信用してくれます、これほど強い力はありません。

農産物等のブランド化にも入りますが、本当にさっき申しましたTPPという問題の中で農産物の国境がなくなる。そうしたときに安倍総理は集約化という中での所得倍増計画を出していますが、それはできるところできないところがあります。朝倉市の中にも農地の中で本当に集約化できない厳しいところがある、ならどうするべきなのか。他と違うブランド化、他と違うものをちゃんと明確にしてブランド化をしていくべきだろう。頑張ってる人に頑張ってありがとうと消費者が言ってくれるようなそういう物語を、その商品、農作物につけてやるべきではないかなと思うんです。それをブランド化だと私は思ってるんですが、西日本新聞の6月の14日の社説にも書いてありました。農業白書が閣議決定されたが、農家の不安を直視したかと問われています。集約化などの構造改革とは別の新たな農業強化策をどう具体化させていくか、安易な先送りが許されない、そう締められて社説に書かれてました。農家の方は預金を取り崩しながら生活していったらという、それも言い過ぎではないぐらい本当に厳しい、所得がどんどん下がってる。その中で、なおかつ今度、ダブルパンチだと、どうするべきか。そこにやっぱり朝倉市としての応援が必要ではないかなと思うんです。さっき教育でも言いました。でも、ここは環境、本当にこのふるさとの環境、市長のおっしゃる、本当に日本一のふるさと構想だと思うんです、その環境がすばらしい中でできて、実直な人がつくった農作物だから大丈夫だよ、安全・安心だよ、そう思うんですが、ブランド化づくりについていかがお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（手嶋源五君） 農業振興課長。

○農業振興課長（仲山茂木君） 現在、ブランド化につきまして取り組みの状況をお知らせします。

ブランド化の推進につきましては、農産物としましては、博多万能ねぎ、柿、梨、イチゴのあまおう、イチジクのとよみつひめ、米の元気つくしなどがあります。また農産物を利用した加工品の開発として、三奈木砂糖、ジャム、柿を使ったお菓子、柿の葉お茶、ドレッシング、漬物等があります。これらの振興策としては、市は毎年度、単独事業を行っております。平成19年度はとよみつひめの苗代の補助と、平成23年度はJA1次加工施設建設の補助など、今年度は県補助事業に対する市費加算、また種なし甘柿、秋王の苗代補助等を行いながら、国、県の補助を活用した農業用機械、加工用機械等の導入を図っております。今やJA筑前あさくら管内のとよみつひめは、福岡県内でもトップを争う産地となり、その中で朝倉市は8割を占めております。また全国でも有数な柿産地として、新たな品種、秋王の導入によりさらなる産地化を目指しております。全国トップブランドの博多万能ねぎや甘柿の富有柿が朝倉ブランドとして広く周知され、米の元気つくしは、日本穀物検定協会が実施しております米の食味ランキングで、平成23年度、4年度で、平成23、24年産米が最高評価の特Aの実績を持っております。しかしながら、新たな付加価値のつ

いたブランド化にはたどり着いてないのが現状でございます。

以上、現状のお話をしました。以上です。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） それぞれの個々の農産物について、朝倉は本当にすばらしいのはわかっていますし、本当に頑張っているというのにはわかりましたが、ブランドにはいろんな考え方がありまして、3つに分けられるというのがちょっとありました。地域ブランドは物のブランド化に加えて、地域イメージのブランド化をセットで展開することですというふうには地域ブランドというのがある。そのブランドを構成する3つとして、1つは今、言われたように、農産物で言えば、味、鮮度の基本的価値がありますと1つ、そのものの味。それと2つ目に、産地、生産者情報の情報的価値、そしてその上に地域の風土やイメージなどの周縁的価値があって、この3つの価値があわせ持つてブランドの価値がさらに高まってくるとあります。商品の各ブランド化というのを、それぞれの個々のものにつくるのも大事ですが、もう1つ、朝倉市として地域ブランドというのをつくり上げるのが大事ではないかなと思っています。先駆けは、さっきから出てました水車公園とか、バサロとか、そういうふうな産直のところでおいしいよというのがあるかと思えます。またもう1つ、万能ねぎが最初開発されたときの、当時の徳永組合長は、「朝倉のね、農業はな、天皇の台所を支えよったとばい。」と、朝倉の農業は、その台所にされたプライドと誇りとその技術があるんだよ、プライドと誇りは一緒ですね、誇りと技術があるんだよというのを言われました。そういう物語を朝倉でつくってあげる、これは行政がつくってあげるべきじゃないかなと思っています。そういう新しいブランドの展開というのを考えてみてはどうかと思っています。いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 農業振興課長。

○農業振興課長（仲山茂木君） 当然、担当課としてのブランドの政策は、当然、今、必要と、それは感じております。大事なことは、量をまず確保するための産地化、あとは消費者の信用を得るための質の高い生産、あと広く周知するためのPRが大事なかなと思っています。そのためには農家、あとJA、民間企業及び市が連携をしていきながら推進していくところが大事だと感じておるところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） これは僕は農業振興課だけの話ではなくて、全体的な朝倉市全部のやっぱりイメージをつくっていかなくちゃいけないというのが地域ブランドだと思っています。農作物の流通においてもいろんなとんどん変わってきました。地域ブランドが何で注目を集めているかというのがありましたんで聞きます。1つは、健康というのがキーワードになっていますが、本当に安全、健康などの消費者ニーズが高まってきた。各種食品の産地表示にかかわる不祥事が相次ぎ、消費者が産地表示に敏感になった結果、安全、

簡便、健康、本物といった消費者ニーズが高まってきている。2番目には、TPPの話でもあります、経済のグローバル化。経済のグローバル化の発信点とともに、海外から安価な商品が流入して、価格競争には勝てず、付加価値をつけた商品しか生き残れなくなった。物語、付加価値をつけるための地域ブランドというのが必要である。3番目には、流通が変わって宅配便等が便利になりましたよ、と。4つ目には情報の発信、インターネット等で非常にこの情報が逐次消費者のところに届くようになった。こういう地域の流れの中で、今、地域ブランドというのをつくらなくちゃいけないんじゃないか。地域ブランドをつくってあげることは、朝倉市の行政としてすべきことではないかなと思ってます。実直な農家の方が真面目につくってる農産物が、それは本当においしくて安全で安心で、この水と緑の日本一のふるさとの朝倉でつくってるんですよというイメージづくりをお願いできないかと思ってますが、いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（井上博之君） 全体的な地域ブランドということで、私のほうからお答えさせていただきます。

議員が言われるように、朝倉市の地域ブランド力、これは農業開発にいろんなところでブランド力というのはやっぱり大事だというふうに思っております。特に将来にわたって内外に対してのPR、あるいは広く浸透させる、あるいはイメージを広げるということは、朝倉市のイメージを広げるということは大切なことだというふうに思います。よく言われるのが、朝倉市独自の風土、あるいは朝倉市独自の気質、固有のものがございます。それも例えば自然とか、人々の気質、それから産業構造、いろんな環境とか条件とか、いろんなものがございます。そういうものをブランド施策として取り組むというのも大事です。例えばお米ができて、やっぱりきれいなところでできてますよというのが1つのポイントですから、そのことは大事だというふうに思っております。

もう1つは、先ほどから出てますように外に向かってのPR、マスコミの利用方法とか、その辺はやっぱり一番大事なところなので、そのほうの活動というのは大切なのかなというふうには思っております。こういうトータル的な推進のためには、行政のほうはやっぱり主体になりますけど、行政だけではなくて、やっぱり多くの市民とか、生産者とか、事業者とか、いろんな方を巻き込みながら取り組んでいく必要があるというふうに思ってますので、トータル的に、総体的に市全体で朝倉市の強み、そういうものを一体的なものとして、地域ブランドとして外へ向かってアピールしていく、これはやっぱり大事だというふうには思ってます。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） PRの仕方、情報発信の仕方の1つの大きなものについて、農産物で言えば、さっきも言いましたが水車公園とバサロがあるのかなと思ってます。あの中で気にかかっているのがレストラン、パン工房という食べ物の本当に実直に入るところが施

設が休業してるということです。有効な活用方法を探してるということでありますが、あそこで作るのかつくらないのかの決断もしなくちゃ、ずっと長く置いといたら、配管等、いろんなものでだめになってしまいますし、宝物が、またもう一遍つくるときにはお金もかかる。もう1つ、朝倉市として何を売りにするかという、その安全・安心でおいしいものというものをあそこで実際に加工して、そして口に入れてもらう、実際来た人に口に入れてもらって体験してもらうということをやろうという考えがあるのでしょうか、ないのでしょうか、そこらあたりのとこ、それぞれの第三セクターで違うかもしれませんが、朝倉市としての政策として、それはあそこはPR棟だから絶対ここは必要だよというのか、いや、それは第三セクターに任せてるよという、そういう一歩引くふうな足場をとるのか、いかがでございましょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） ただ、いま昔みたいにバサロの場合はパンをつくってないからどうかという話のようではありますが。

○11番（富田栄一君） パンではなくてもいい。

○市長（森田俊介君） パン工房の話でしょう。

○11番（富田栄一君） 加工とかいろんな……。

○市長（森田俊介君） だから、まずその話を出たんで、今、食堂で使ってたパン工房も今、やめてます。それから三連水車のほうのあそこも、今、食事の提供は昔みたいな形でやってません。それはなぜなのかということです。いわゆる第三セクターの会社を経営していく中で、ああいうところである一定の赤字はどうなのか知りませんが、あそこでもうかるという必要はなかろうと。しかし、ある程度、そこに行くことによって、来た人たちがそこで食事したりすることによって、そしてまた、そこにあるものを買っていただくということで来てたんですけれども、余りにもその部門の赤字が多かったということで、あそこについては、特に三連水車の里については売り場を、今まで弁当ですとか、総菜を売ってた、それを売り場をあそこに食堂のとこへ持っていきまして、あそこに売り場をつくりまして、そして机を置いて、そして簡単なおみそ汁ですとかコーヒーとか置いてます、100円とかで。そこで食べてくださいよということで、今、結構、昼間なんか、そこで買った弁当をその食堂で食べる方も結構いらっしゃいます、そういう形で活用しておるということです。ですから少なくともそこにかかった人件費というのがほとんどありませんので、今、最終的にまだ今月の見てませんが、相当赤字という面では減るのかな。それと、そこで来た人たちが、自分の思い思いにそこで食事ができると、要するに自分たちが、例えば弁当持っていくのはどうか知らんですけど、そこで買った、売ってるお弁当をそこで食べるというようなことで比較的いい。

バサロについてはそういうあれがありませんので、一応、休憩室という形でつくってます。これについては、将来的にどういう形で活用するかということで、今、検討中です。

それとあわせて、じゃあつくったものをそこでどうするかという話だろうと思います。例えばバサロで言いますと松末にありますね。あそこのつくったのを出してくださいと何度もお願ひしています。だから、なかなか出てこないというのが現状なんです。それは理由は知りません、わかりません。それはあそことしては地元でつくったもの、確かに今、バサロのあそこらについても地域で何とかしたい、何とか自分たちでしたものをあそこでという話も上がってきてるみたいです。ですから、そのことについては当然、地元の人たちが加工したものをそこでということについては、会社としては、これは私だけじゃなくて、取締役会の中で決定する話ですけども、それを初めからだめだという話にはならんだろうというふうに思います。一応そういう状況です。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 農産物をそのまま出すということと、また、それを加工するということが付加価値がついてくる。また、もう1つは、傷んで出せなかったものが出せるとか、いろんなものでプラスアルファがあるというのが、今、6次産業化というのは非常に見直されてきてます。市長言われるようにいろんな問題があって、あそこは休んでるんだとは十分わかってますし、でも6次産業という動きもありますので、もう1度、そこは考えていただいて、しっかりと検討いただきたいなと思ってますし、それが本当に朝倉の農産物の代表として、また、これから動いてくる朝農跡地の施設もそういう中での何かしらのものでできる、加工品ができるということでもありますんで、そういうふうに動くのかなというふうに思ってますので、ぜひ市も積極的に検討いただきたいなと思ってます。

3番目の観光についてということで、観光というか、黒田官兵衛のつながりと朝倉ブランド政策ということでお話しさせていただきたいと思ってます。

教育と、それから農産物と、今、2つ話してきましたが、朝倉の地域ブランドとして私は思うのは、やっぱり環境だと思ってます。環境で官兵衛で何がつながるかといったら、江戸時代が一番持続可能な仕組みをつくった時代だと言われてます。官兵衛についても、黒田官兵衛のNHKの大河ドラマが来年できるんですが、その後についてが、この朝倉地域については非常に関係が深いのではないかな。官兵衛、さっきもSWOT分析の中で話しましたが、今のチャンスをどう生かすかというのが、この黒田官兵衛にあるかと思うんで、その中にこの朝倉の環境というものをどんどんPRしていく、その方策に方法として、この大河ドラマに合わせて一緒に情報発信したらどうかなと私は思ってます。いろんなことで冊子もこの前、見せていただきましたが、黒田官兵衛の取り組みというのをされていますが、どういうふうに考えて、この朝倉をPRしていこうと思ってるのかお尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 議員のほうからお話がありました、来年1月、26年1月から大河ドラマ「軍師官兵衛」が放送されます。既にシナリオ等についてはある程度でき

ておるといふことですが、朝倉市としまして、福岡県内に関係自治体のほうが17自治体ございます。もちろん県の知事が筆頭になって、このほど4月に福岡県の軍師官兵衛のプロジェクトが立ち上げられております。この分に朝倉市もきちっと入りまして、今、情報発信の部分を収集してるところでございます。

それから先日、新聞でも紹介がありましたように、一からこの黒田官兵衛にゆかりのある朝倉を紹介しようというパンフをつくっております。一からというのは、実はいろんな歴史書、甘木の歴史、杷木の史書から引用したのもでございますし、ふるさと人物史からも引用しております。間違いのないところで作成をしたパンフを既にホームページ、あるいは旅行エージェント等に配付をしているところでございます。

本来、専門であれば文化課になるかもしれませんが、我々もきちっとこれを観光という、あるいは入り込みの増大につなげていかなければならないということで、各自、商工観光内で勉強する中で、当然、黒田という、官兵衛ということで、秋月の初代の長興公がもちろん孫ということはわかっておりましたが、その分とは別に、三奈木の黒田家、さらに官兵衛の死去を弔うために建てられた円清寺、もちろんこの円清寺の名前も官兵衛の法名ということで、我々はそこあたりがまだまだ市民のほうにも伝わってないし、今回、こういうことをきちっと情報発信することに対して、市民にこの官兵衛ゆかりの土地だよということを愛着を持ってもらう、誇りに持ってもらうという取り組みをしていきたいと思っております。

それから地元の方たちの協力を得ながら、既にJTBを初め、民間の旅行業者のプレゼンのほうにも、このパンフを使っていっておるところでございます。

とりあえず全53話ということで予定されとるということですが、この分については、朝倉市としてもゆかりの地ということを全国にPRをしていきたいということで、今、準備を進めてるところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） NHKの働きかけというのは本当大事だと思っております。

私は、それからあと、きょうのブランド化の話ですが、環境と一体で、1つは黒田二十四騎という黒田家の有名な武士がいらっしゃいますが、その中のお孫さんまでを入れた家系の中で、また朝倉市郡をしたら11人の方が、この24人の中の11人が関係ある方々です。ということは、朝倉市郡が結構、黒田家と関係が深いんだということがあろうと思うんです。それを中心にして、もう1つ、さっき言いましたが、環境で持続可能な町ですよ、大事にしますよ、この朝倉市はということを広めて、江戸時代というので輪っかにくくって、それぞれのコミュニティの中に落とし込んでいけば、江戸時代のいろんな工夫とか、町の遺跡とか、いろんなものが入ってくるのではないかな。そういうものをもって、この朝倉市の一体化を、この黒田官兵衛を利用してというのはあれですが、黒田官兵衛のチャンス

生かして、朝倉の一体感を持ったらどうかと。その中に地域ブランドとして持続可能な町、朝倉、市長のおっしゃる日本一のふるさと朝倉というのが出てくるのではないかなと思ってます。そういう地域づくりについて、観光PRとともに考えていったらどうかと思うんですが、ちょっと飛んでるかもしれませんが、合併してなかなか朝倉は1つじゃないという中に、この黒田官兵衛を生かして朝倉の一体化を全国にPRするという考えはどうでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 議員の言われる持続可能な江戸時代、あるいは江戸時代に入る前の、そういったふうな官兵衛が生きた時代の生きざま、あるいは地域の構成等を踏まえたところで、今の朝倉市の各部分に生かすことができないかということですが、それぞれの生きざまというのが、ちょっと私どものほう、私は商工観光課のほうの所管としか物が言えませんが、まずその時代、こういう黒田の二十四騎、あるいは十一騎が朝倉市におられる、あるいはそういうゆかりのあった土地だったということ、まずいろんな場面で市民のほうに周知、知ってもら。そこで愛着を持ってもらうというところからのスタートかなということで、まずそこから進んでいこうということで考えております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 歴史というのは非常な財産だと思ってます、市長のおっしゃる、本当宝物だと思ってます。それは何か、この地域の持つる自然資源と、もう1つ、私たちの先祖が培ってきた文化のその結集だと思うんです。それをもう一遍、掘り起こすことによって、今の私たちも誇りを持てるし、なおかつ、もう一遍やろうという元気も出てくるのではないかな。また埋もれてしまった宝物がもう一遍、出てくるのではないかなと思ってます。

教育の話にまた戻るんですが、福岡市の教育委員会が能古島と、それと勝馬小学校ですかね、と曲淵小学校というところで、要するに市内からそういう田舎の学校に圏域を外して通学しませんかというような企画を持っています。これは能古島に行ってる人が、能古島に子供が渡船で通学しよるよということから聞きましたけど、本当にそういうことは現実に起きてます。

朝倉市がやっぱり何をやるにしても、消費者として見てる、一番思ってる福岡市の市民の方々が、間違いなく環境についての意識が高まっている。であれば、何遍も言いますが、この環境というテーマの中で教育をブランド化することによって、何かしらの朝倉ブランド、地域の活性化と、そして、ここに移り住もうというきっかけづくりが何かできるのではないかなと思うんですが、そういう施策について、もう一遍、最後に教育長のお言葉を聞いて、最後終わらせていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） いろんなところから学校に転校してきていただくというふうなの、1つあると思います。そういうふうになる一番大もとは、そこに住んでいらっしゃる子供さん、保護者、地域の方が、この学校に、自分の母校に入れたいよねと、やっぱりここが一番いいよという学校にすることが前提だと思います。自分がこの学校が一番いいという学校をつくり上げると、周りもあんな学校に行けたらいいなと思っていただけるんじゃないかなと思っております。そういう意味で頑張りたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 本当に国連の事務官のニールさんが言ったように、この教育という、朝倉の教育とは彼は言わなかったけど、教育というのは本当に子供たちを成長させる、そのすばらしい宝に環境がなるというのを朝倉教育として培っていただければな、そのブランドをしていただければなと思ってますし、なおかつ、本当に朝倉市民の皆さんは非常に経済的にも厳しい中におります。何かしら世界の中の渦に巻き込まれないためにも、このふるさとに足をしっかりつかせて、根を張らせるためにも、地域ブランドというのは必要ではないかな、それをつくっていくのは私たち議員でもありますし、また執行部の皆様のお力を借りて、この朝倉市の2つの両輪でつくっていかなければいけないのではないかと思って一般質問を終わらせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後3時18分休憩